

第2回宇宙政策委員会 議事要旨

1. 日時：平成24年8月15日（水） 15：00－16：45
2. 場所：内閣府宇宙戦略室5階会議室
3. 出席者
 - (1) 委員
葛西委員長、青木委員、中須賀委員、松本委員、山川委員、山崎委員
 - (2) 政府側
古川内閣府特命担当大臣（宇宙政策）、園田内閣府大臣政務官、阪本内閣府官房長、西本宇宙戦略室長、明野宇宙戦略室審議官 他
4. 議事要旨
 - (1) 古川大臣の挨拶
会議の冒頭古川大臣から以下のようなご挨拶があった。

古川大臣：本日はお集まりいただき、心より感謝申し上げます。

今回は、宇宙開発利用に関する予算の現状につき、宇宙開発戦略専門調査会でのこれまでの議論を紹介しながら自由に議論いただいた。今回は、前回の議論を踏まえて、平成25年度概算要求に当たって各省の指針となる、宇宙開発利用に関する経費の見積りの方針について、具体的な御審議をいただければと考えている。

昨今の我が国の厳しい財政事情を踏まえ、宇宙開発利用を戦略的に実施していくためには、各省が行う宇宙関係事業についての予算の重点化を行うとともに、事業間の相乗効果を高め、重複を排除することによって、効率化を進めてメリハリのある宇宙関係予算を編成していくことが必要不可欠と考えている。

今日御議論いただく経費の見積りの方針の審議は、内閣府が宇宙政策における司令塔機能をきちんと発揮することが試される、最初の大きな仕事であると考えている。

今日御議論いただく見積りの方針によって、メリハリがついて重点化がしっかり行われ、外部から見ても評価されるような宇宙関係予算の編成に向けての大きな第一歩となることから、委員におかれては、これまでのさまざまな経験を通じて得られた御知見を十分に活用しつつ議論いただき、方向性をお示しいただきたい。

議事（1）平成25年度宇宙開発利用に関する経費の見積りの方針について

事務局から資料1「平成25年度宇宙開発利用に関する経費の見積りの方針（案）」について説明があった後、委員からは、以下のような主な意見があった。

同方針案は、これらの意見を踏まえ一部修正の上、宇宙政策委員会の報告とすることで了承された。なお、修正については委員長に一任された。

- 準天頂衛星やリモートセンシングは、利用の拡大をするべきであり、よりアクティブな利用開拓のためのアクションを宇宙システムの整備と並行して進めるべきである。
- 人材育成については、重要な視点であるため、特段の予算とリンクするわけではないが、本文に記述を加えるべきである。
- データ中継衛星は、リモートセンシングで撮像したデータを素早く地上に伝送するという観点から重要であるが、国際的にはホステッドパイロードなど効率的に行う手法もあり、日本として将来的な在り方を検討するべきである。
- 宇宙太陽光発電は、「宇宙のエネルギー分野への応用」という観点を明記するべきである。
- 「宇宙は人類のフロンティア」であるとの記述を基本認識に明記するべきである。
- 利用の裾野を拡大するための施策は重要であり、例示的に表彰が書かれているが、これに加えて新規参入を支援するような施策も重要である。

議事（２）見積りの方針のフォローアップについて

事務局から資料２「平成２５年度宇宙開発利用に関する経費の見積りの方針」に対する主なフォローアップの進め方について」の説明があった。

主な委員からの質問等は、以下の通り（○：委員、●：事務局）。

- これまで事務局で膨大な作業してきたのは理解したが、今後、委員会としては、どのような対応になるのか。
- 各府省の概算要求を事務局で整理し、宇宙政策委員会でも主要省庁からヒアリングを実施するなど、委員会としてのフォローアップが円滑に進むよう準備を進めたい。また、予算執行段階でのフォローアップも重要と考えている。
- 準天頂衛星システムの海外展開を図るためのアクションは、内閣府の仕事か。
- 内閣府として推進しているところである。

議事（３）その他

事務局から、本日、審議された見積りの方針案は、概算要求に関する閣議決定の後に、古川大臣が取りまとめ、内閣府から各省に提示する予定であることが説明された。

以上